

OITA SOFTBALL DREAM PROJECT

SINCE 2018

3年目の報告

紙上報告

大分県ソフトボール協会
プロジェクト委員会

ドリームプロジェクト基本方針

- ① このプロジェクトを将来に向けた最重要事業と位置付ける。
- ② 県協会は持てる力の全てを結集し、関係者(チーム、指導者、選手、保護者)の理解と協力を得て、短・中・長期的に継続実施する。
- ③ 推進に当たっては、現状の枠組みを可能な限り維持することに努め、今後生じる個々の問題に対しては、協会内部及び関係者間で十分な協議を重ね事業目的達成を目指す。

ドリームプロジェクト 目的

- ① 小・中学生チームの選手・チームの増加につなげる。
- ② 技術力、競技力の向上、強化につなげる。
- ③ 指導者の有効活用ならびに育成・資質向上につなげる。

ドリームプロジェクト 目標

- ① 少年団・中体連チームの減少に歯止めをかけ、小中学生チームを増加させる。
- ② 県内の公認指導員を有効活用し、積極的に講習会に派遣し指導技術および資質向上を図る。
- ③ 2028年までに日本代表選手(男女)を輩出する。(各カテゴリー)
- ④ 2028年までに都道府県対抗大会(中学生)、国体(少年・成年男女)で入賞を果たす。



公益財団法人 日本ソフトボール協会

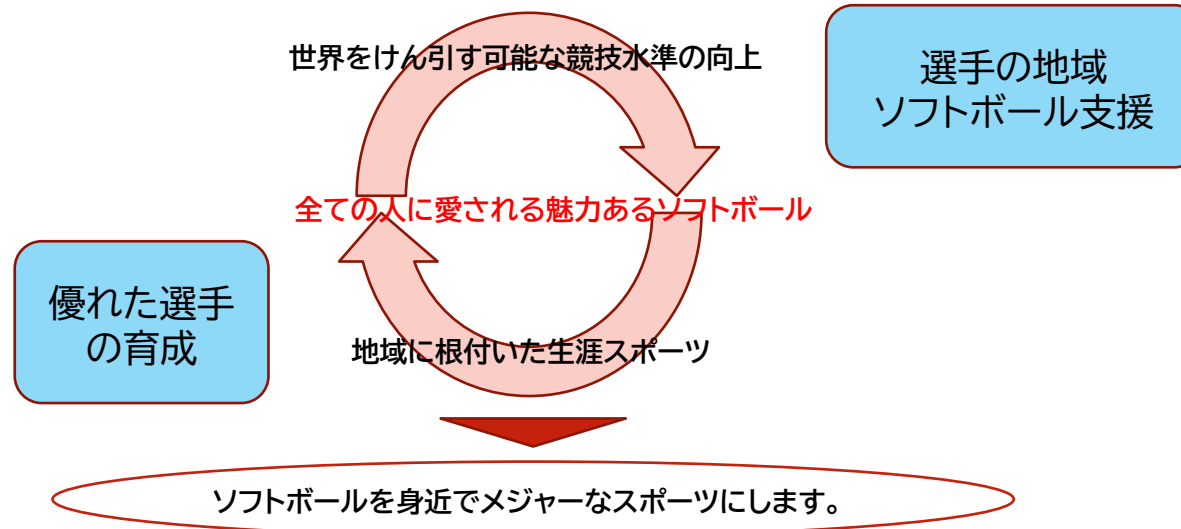
2020/2/23

～日本協会活性化プロジェクト～

「2030年ありたい姿プロジェクト」

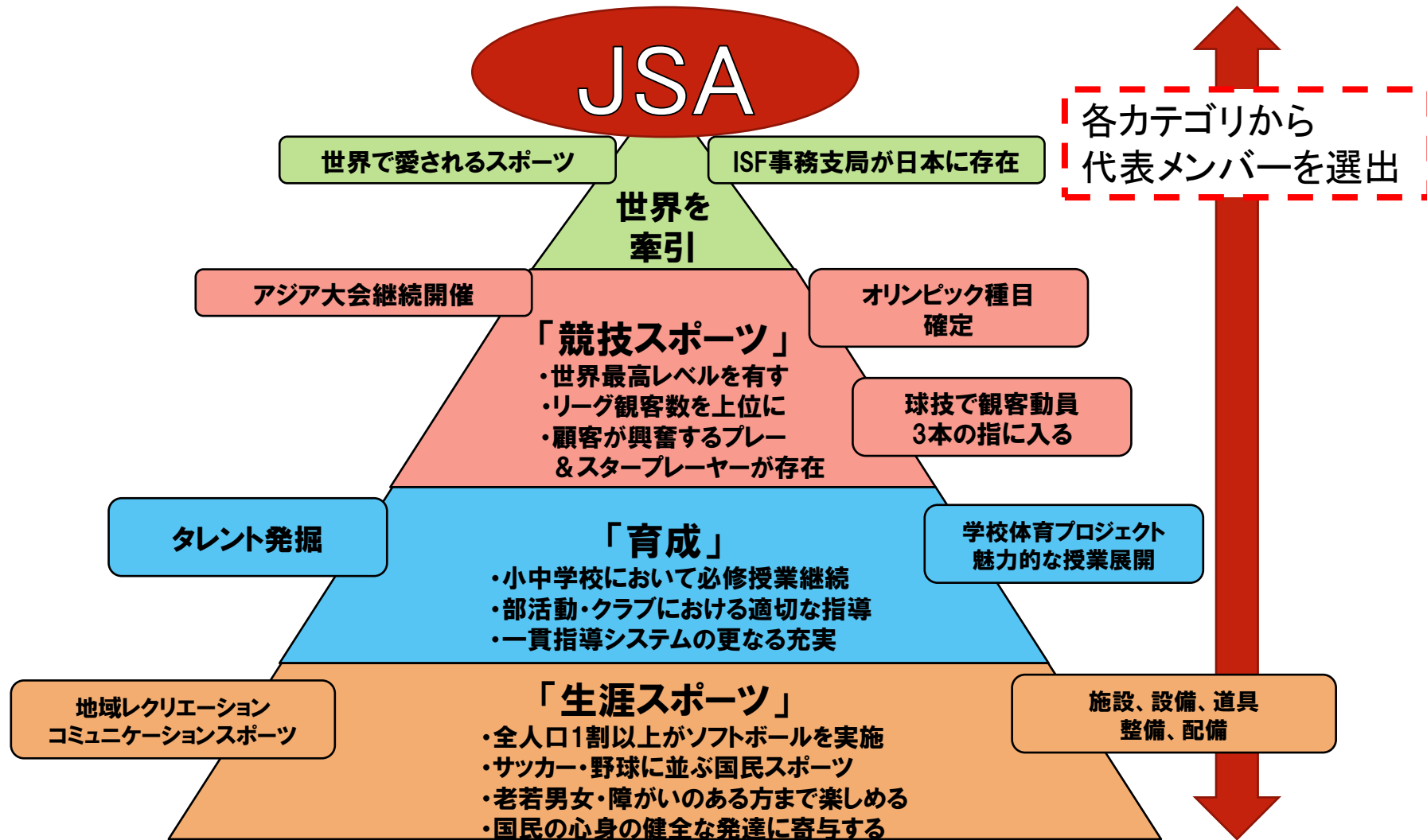
日本協会活性化プロジェクトの理念

- ①ソフトボールを、より魅力のある愛されるスポーツにします。
- ②地域に根付き、社会に貢献する生涯スポーツとして普及します。
- ③世界をけん引を可能とする、日本の競技力・組織力を向上させます。



公益財団法人日本ソフトボール協会

「2030年ありたい姿プロジェクト」とは



日本ソフトボール協会 当該中期戦略の位置づけ ～2030年ありたい姿への道のリイメージ～

2024年中期戦略

2030に向けての
具体的実行プランの第一フェーズ

2020

2024

競技人口増の
施策が現場に
落とし込まれている

- 若年層競技人口減衰率：50%改善
- 都道府県協会法人化：100%

2030

身近でメジャーなスポーツになる

- 若年層競技人口増加率：2%以上
- 都道府県協会財政基盤：全協会独立黒字採算向上（2027比）
- トップチームジュニア育成プログラム：100%稼働
- トップリーグ観戦者数：600%（2020比）

2027

地域に根付いた
生涯スポーツの地位獲得

- 若年層競技人口減衰率：100%改善
- 都道府県協会財政基盤：全協会独立黒字採算
- トップチームジュニア育成プログラム：100%稼働
- トップリーグ観戦者数：400%（2020比）

日本協会が考える重点課題のまとめ

■する

- ◎いかに若年層や学生の競技環境をせいびするか
- ◎いかに競技人口を増やすか
- ◎いかに若手有望選手を発掘するか
- ◎いかに世界的に注目される国際大会を継続するか

■みる

- ◎いかに面白い興行にするか
- ◎いかに一般の集客を増やすか
- ◎いかに男子競技の魅力を伝えるか
- ◎いかにメディアに取り上げられるか
- ◎いかに2020年の盛り上げを継続するか

■ささえる

- ◎いかに競技運営の質を高めるか
- ◎いかに組織運営の質を高めるか
- ◎いかに優秀な指導者を確保するか

■ 都道府県協会の活性化目標

各都道府県協会が競技人口増を主軸とした、活動を自主自発的に行い、
2024年の目標値を一丸で達成する。



2024年の目標値：

1. 活動促進目標／若年層競技人口減衰率：50%改善
⇒各都道府県の減少が2019年比で半分に留まる
2. 都道府県協会基盤強化目標・法人化：100%
⇒各都道府県が健全で積極的な活動を行う上でマストな体制が整う

各都道府県協会が上記目標に向けた活動を行うためには、
各協会ごとの組織強化が必須であると考えます

日本協会が考える重点課題の役割分担

項目	課題	日本代表	トップ リーグ	支部協会	その他				
する	いかに若年層や学生の競技環境を整備するか		○	◎					
	いかに競技人口を増やすか			◎					
	いかに学生の競技環境を整備するか		○	◎					
	いかに若手有望選手を発掘するか		○	◎					
	いかに世界的に注目される国際大会を継続できるか	◎	○						
ささえる	いかに競技運営の質を高めるか		○	◎					
	いかに組織運営の質を高めるか		○	◎					
	いかに優秀な指導者を確保するか		○	◎					
みる	いかに面白い興行にするか		◎						
	いかに一般の集客を増やすか		◎						
	いかに男子競技の魅力を伝えるか				◎				
	いかにメディアに取り上げられるか	◎	◎						
	いかに東京オリンピックの盛り上げを継続するか		◎	○					

都道府県協会の活動促進
(構想)

リーグ活性化
プロジェクト
(男子・女子)

県協会活性化 基本要素	日本協会が手を打つべき支援項目	2020年度	2021年度	2022年度	2023年度
ヒト： 体制構築	マネジメント体制支援	実践例(3協会構築による、プログラム内容、支援内容、支援方法を固める) ↓ 3県協会の活性化スタート ↓ 三重県 岡山県 大分県	各種プログラムの一時展開開始及び追加実践例(3協会)フォローによる、プログラム内容、支援内容、支援方法のブラッシュアップ ↓ 各種支援プログラムの汎用展開による各県協会の活性化スタート(全15協会)	各種プログラムの本格展開開始及び各プログラムの適宜改善 ↓ 各種支援プログラムの本格展開による各県協会の活性化スタート(全30協会)	各種プログラムの本格展開開始及び各プログラムの適宜改善 ↓ 各種支援プログラムの本格展開による各県協会の活性化スタート(全47協会)
	事務局スタッフ拡充支援				
	コーチ拡充支援				
	コンプライアンスの徹底				
	法人化支援				
モノ： 競技環境醸成	小中学生プライベートチームのグランド確保のためのノウハウ提供				
	小中学生プライベートチームのGM、コーチ体制確保のための仕組み構築				
カネ： 活動資金捻出	部活存続活動費用捻出方法指導				
	プライベートチーム設立・運営支援資金の援助				
	新規競技者獲得イベント費用捻出方法指導				
	新規競技者獲得イベント費用の援助				
	大会活用事業の費用捻出方法指導				
	大会活用事業の費用の援助				
	県協会運営費用の適正管理と普及事業予算 捻出方法指導				
	県協会の体制維持費用の援助				
情報： 各協会が自主的に 動くためのノウハウ 提供	各種活動プログラムの情報提供				
	各種活動プログラムの実施支援教育				
	協会運営の工夫情報の提供				

日本協会が考える重点課題の捉え方

まずは、ソフトボール競技人口の維持拡大が「2030年ありたい姿への中核課題」と考える。

新リーグ構想による、ファン拡大のためにも。

世界一レベルの競技国となるためにも。

将来にわたりソフトボール文化を定着し続けるためにも。

競技人口数が全ての土台ではないかと考える。

特に若年層の維持・拡大は、将来を見据えた、喫緊の課題ではないか。



大分ソフトボールドリームプロジェクトの目的と同じである。

県協会と日本協会との連携

大分県協会重点事業
OITA SOFTBALL
DREAM PROJECT
(県協会2018～)

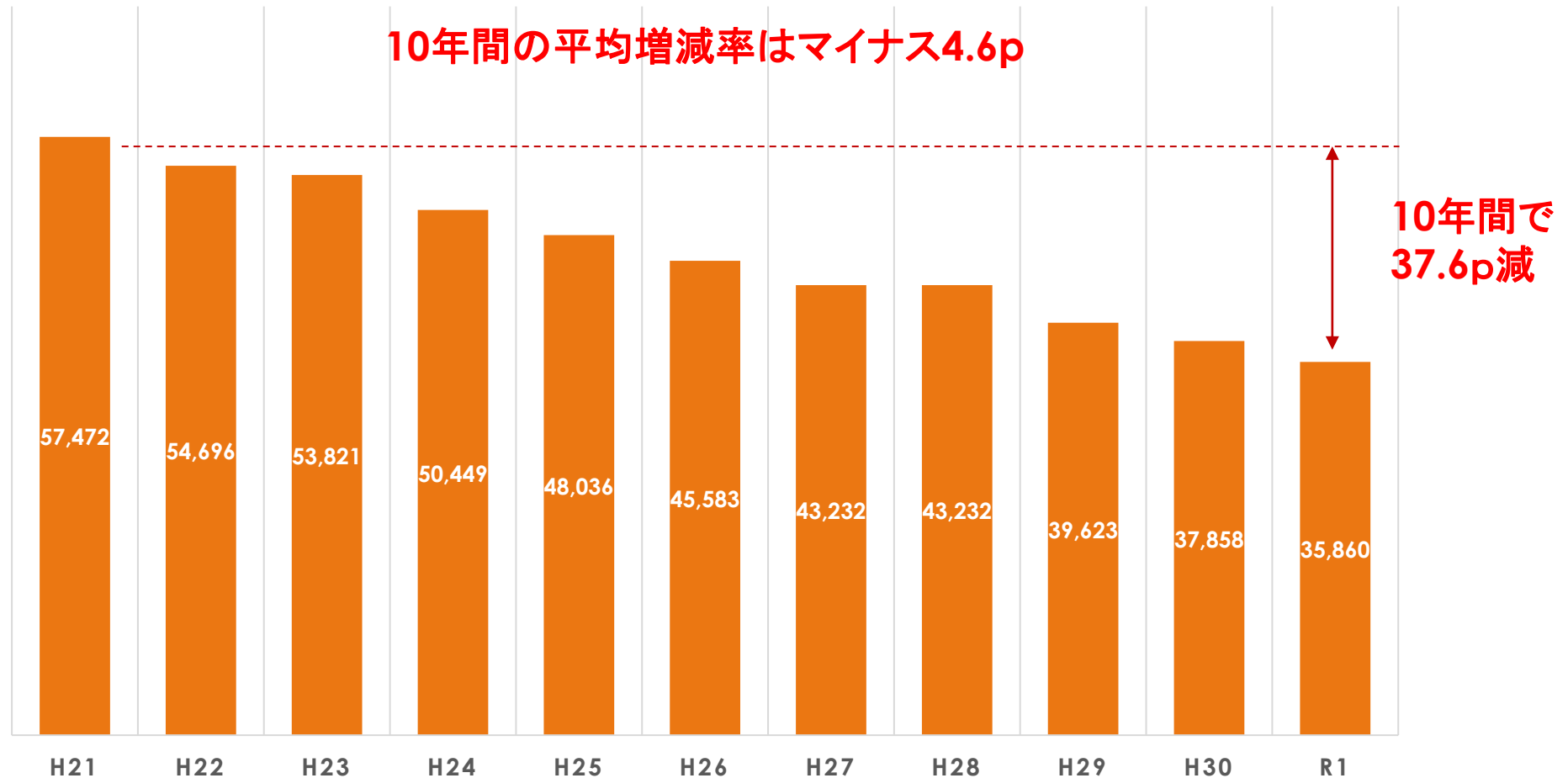
⇔
連携
アドバイス

日本協会重点事業
「支部活性化プロジェクト」
(日本協会2020～)
※電通の協力

目的の共通点 小中学生への普及活動（競技人口の増加）

全国 若年層の競技人口の現状（中体連ベース）

全国中学女子ソフトボール



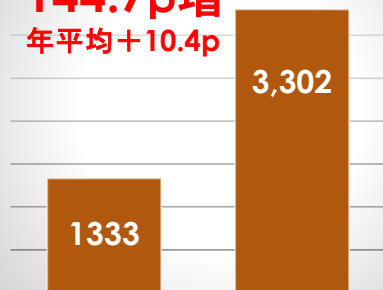


参考資料(データ)

全国 中学生女子の競技人口推移（H21年とR1年比較）

軟式野球

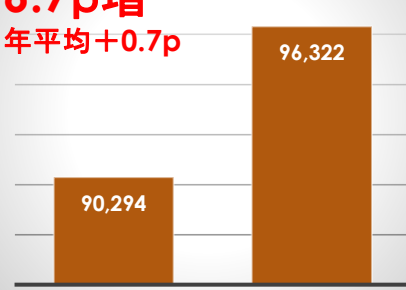
144.7p増
年平均+10.4p



H21 R1

陸上競技

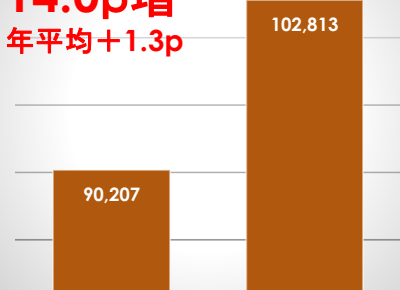
6.7p増
年平均+0.7p



H21 R1

卓球

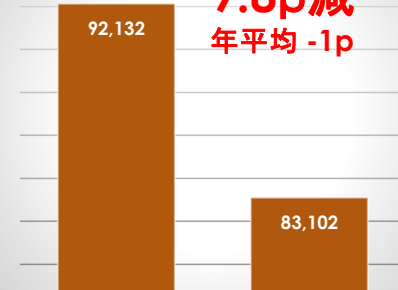
14.0p増
年平均+1.3p



H21 R1

バドミントン

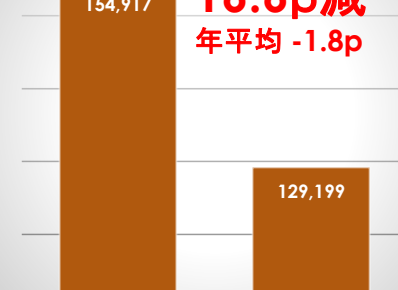
9.8p減
年平均-1p



H21 R1

バスケットボール

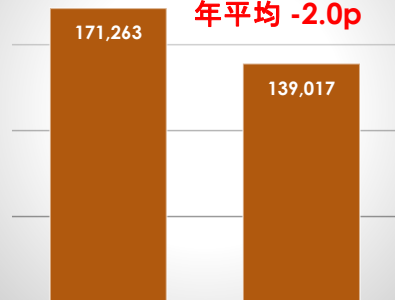
16.6p減
年平均-1.8p



H21 R1

バレーボール

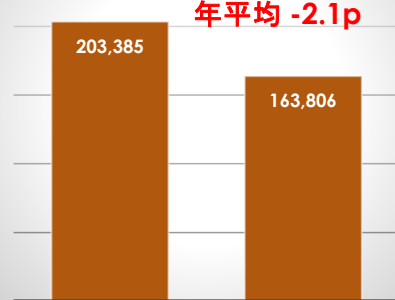
18.8p減
年平均-2.0p



H21 R1

ソフトテニス

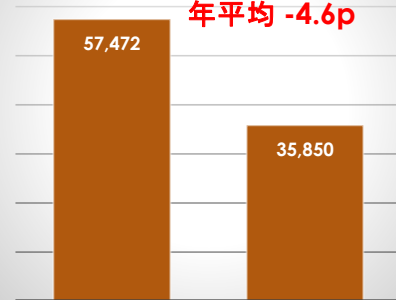
19.5p減
年平均-2.1p



H21 R1

ソフトボール

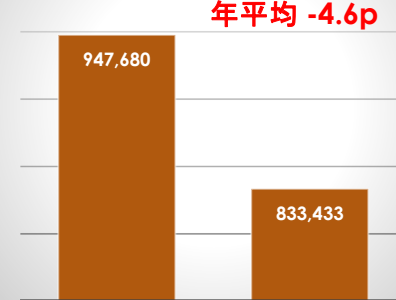
37.6p減
年平均-4.6p



H21 R1

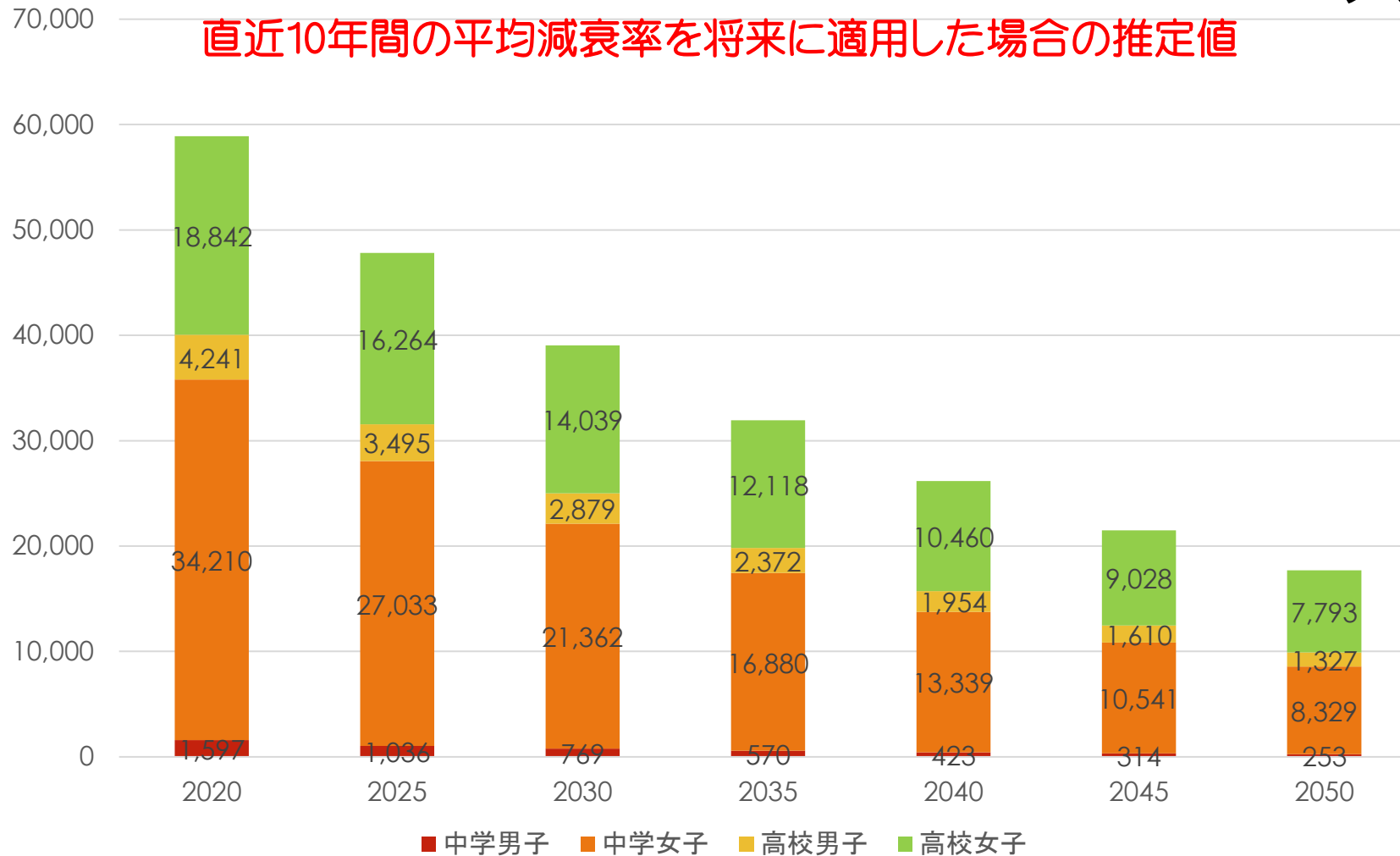
女子全競技

37.6p減
年平均-4.6p



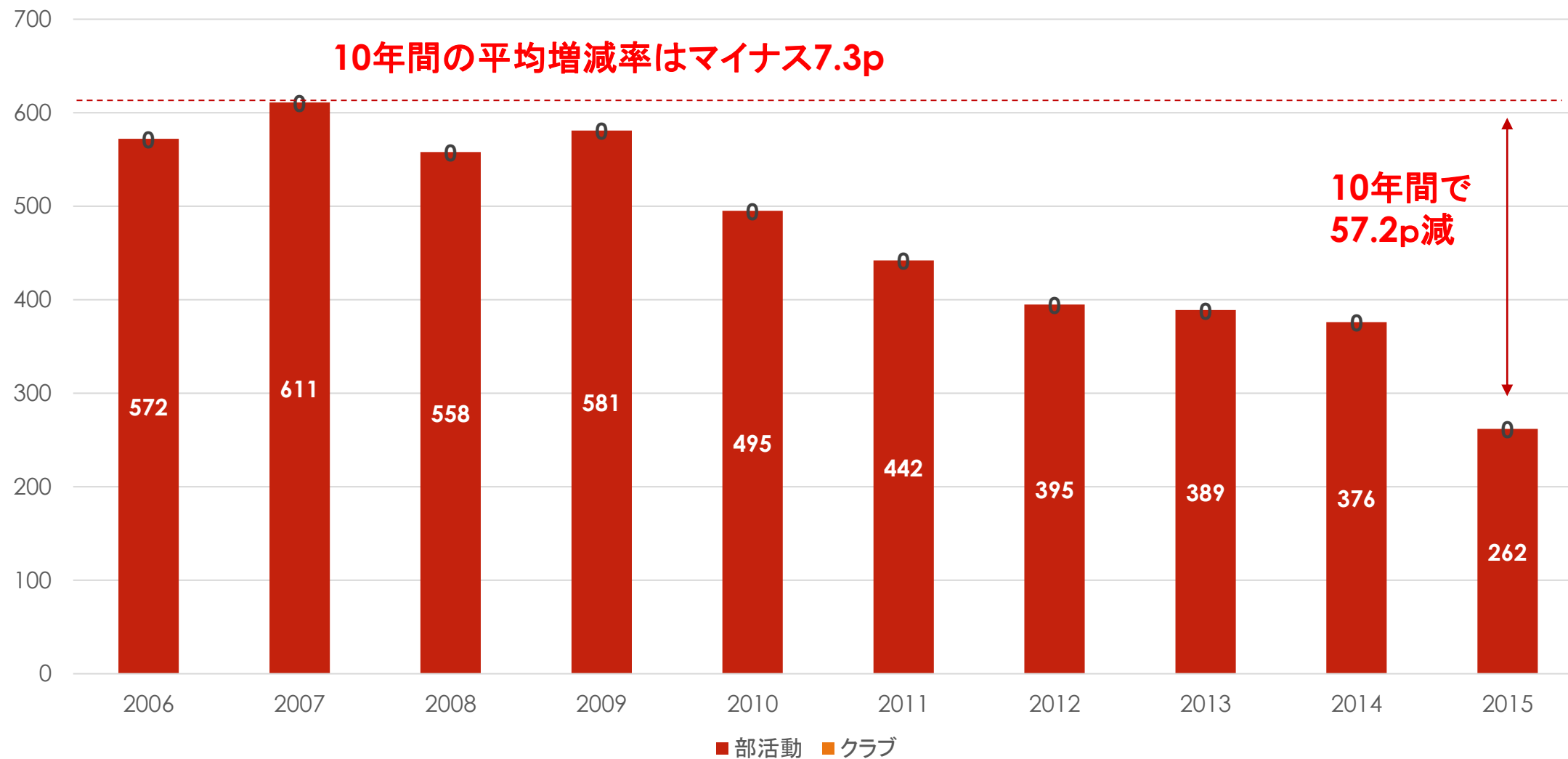
H21 R1

若年層の将来の競技人口の減少は深刻です（全国データ） ソフトボール

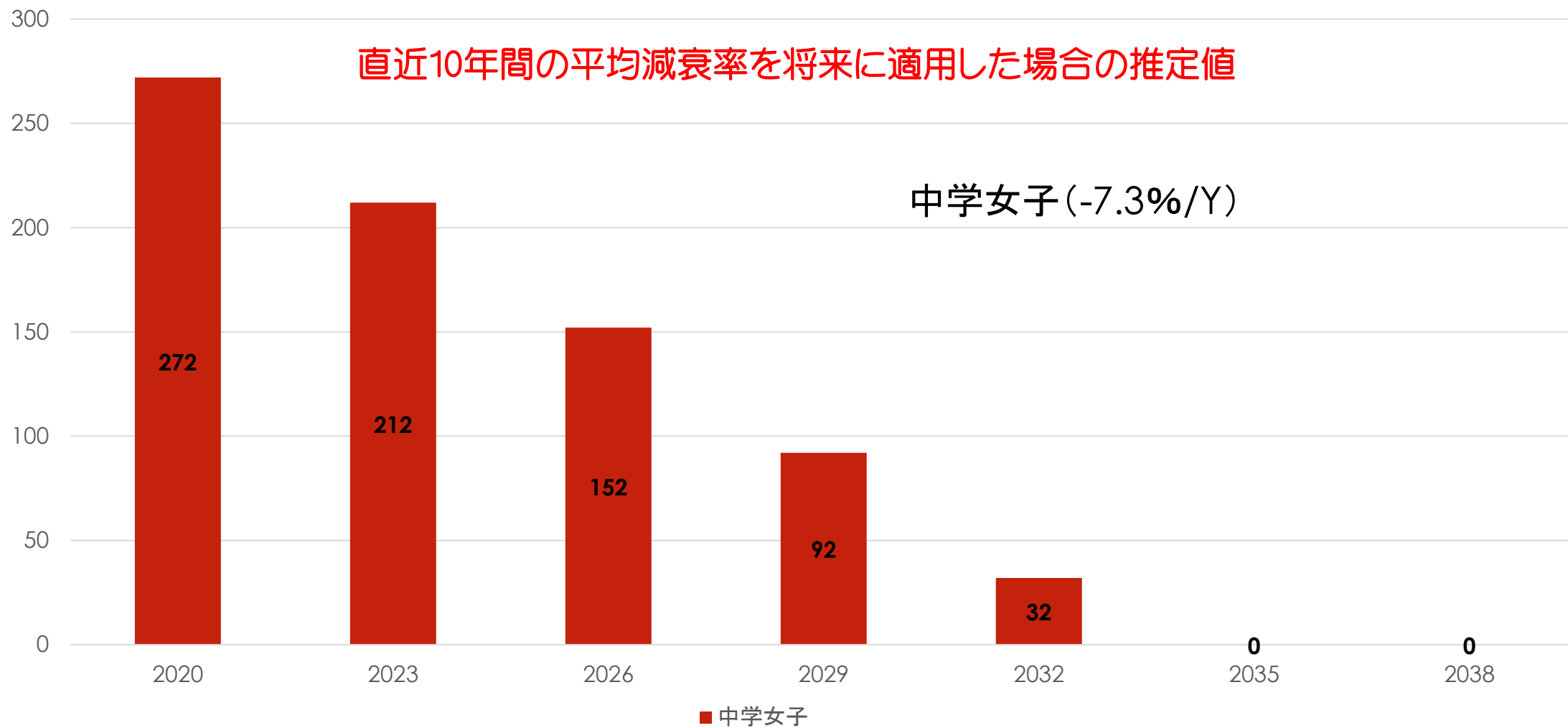


大分県 若年層の競技人口の現状（2006年～2015年）

大分県中学女子ソフトボール

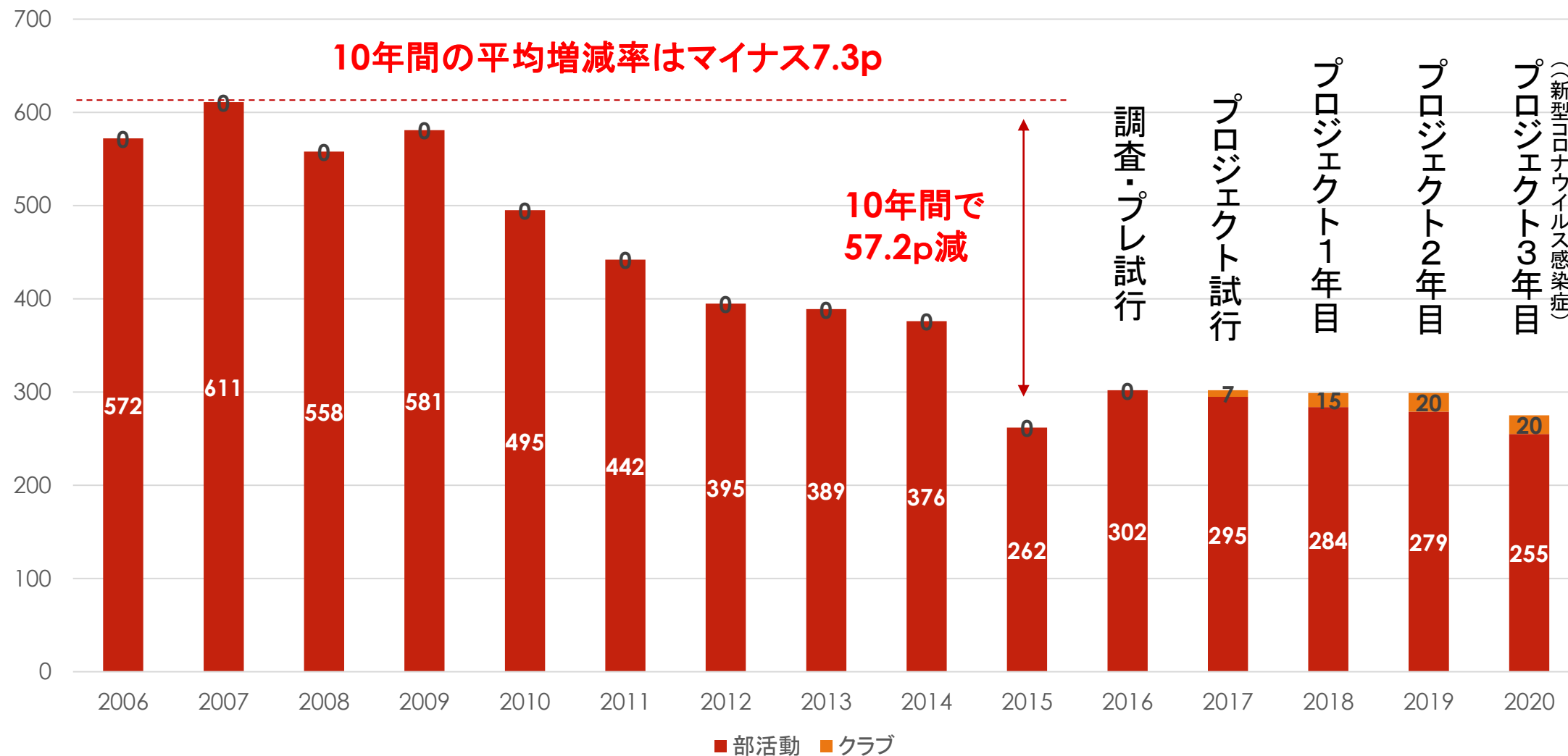


大分県 若年層の将来の競技人口の減少は深刻（中体連ベース）



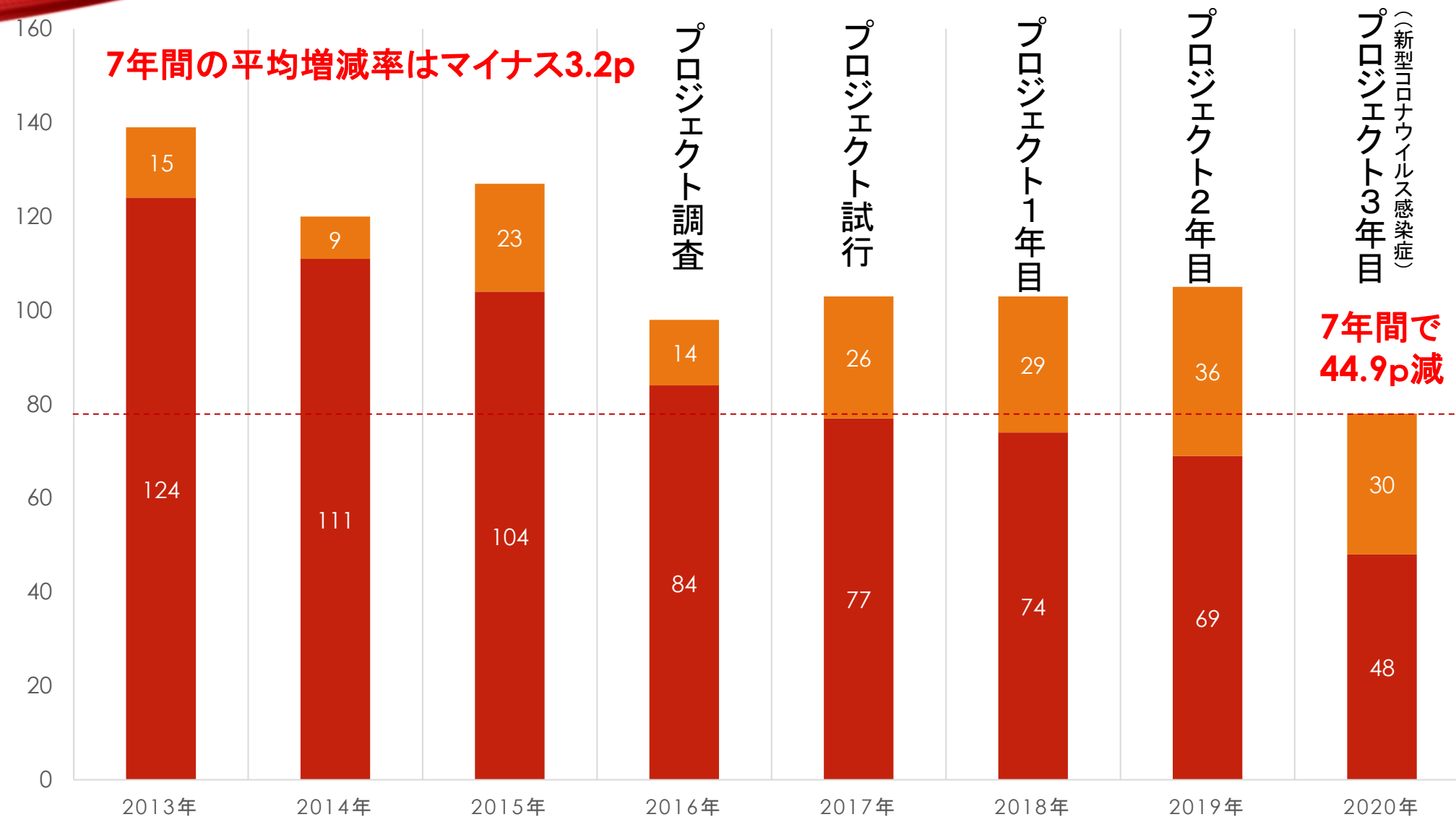
大分県 若年層の競技人口の現状（プロジェクト3年経過）

大分県中学女子ソフトボール

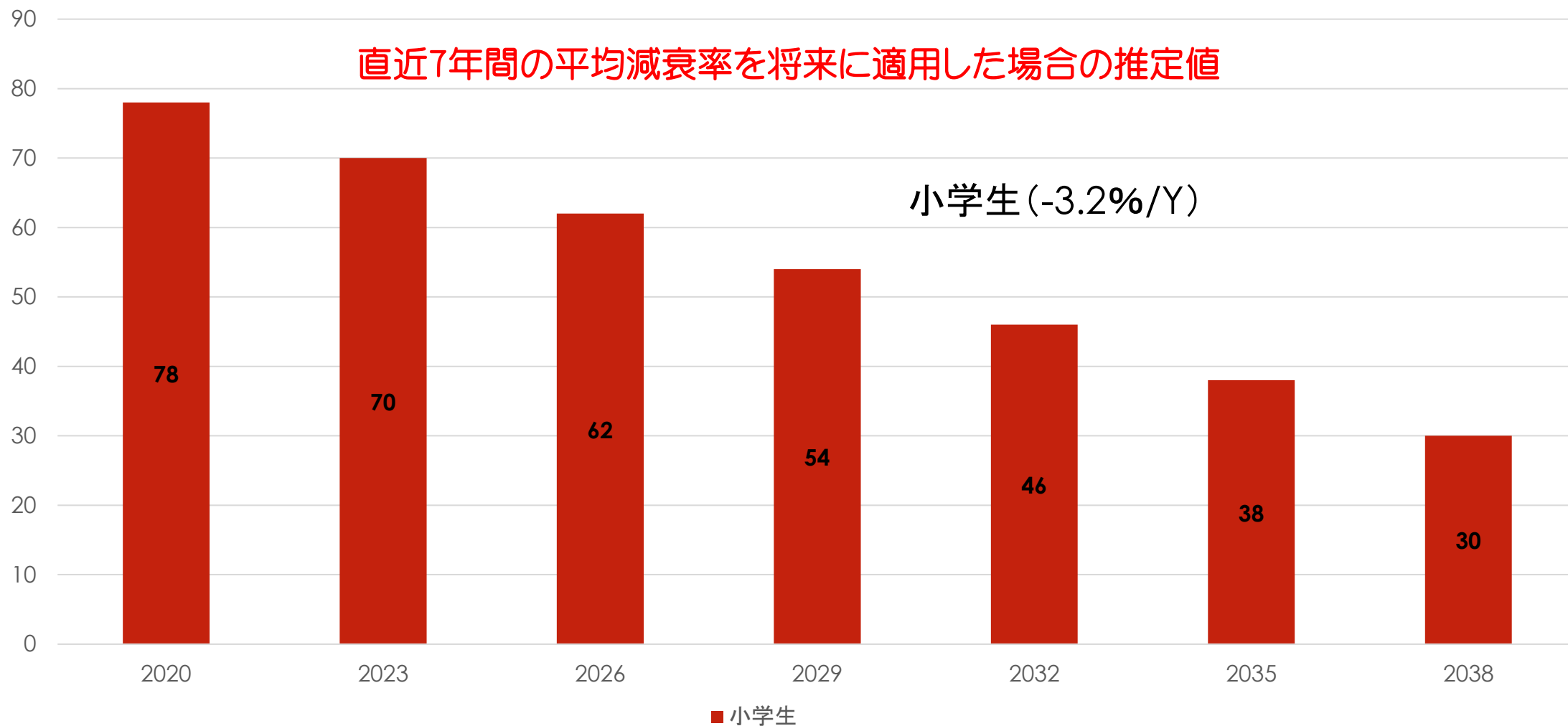


小学生 男女別

■ 男子選手数 ■ 女子選手数



大分県 若年層の将来の競技人口の減少は深刻（小学生ベース）



グラフから見た現状・分析・課題等①

【中学生】

- プロジェクト3年目をコロナ禍で迎えた。コロナ禍で入部機会が減少したかは不透明。
- 中学生女子の競技人口は、10年間で57.2p減である(年平均7.3p減)。
- プロジェクト実施3年間の経過は9p減である。競技人口の減少は一定程度抑えられている。
- プロジェクト以外で普及委員会主導の明確かつ目的を絞った効果的な事業が必要。
- 教職員の休日の部活動の段階的な地域移行が文科省より示され、平日は「学校部活動」、休日は「地域部活動」という位置づけが示された。(2020/9/1 スポーツ庁HP「学校の働き方改革を踏まえた部活動改革」参照) 今後は「学校部活動」と「地域部活動」の連携が必要になり、受け皿がない地域が課題となる。
- クラブ(少年団)創部により競技環境の選択ができるようになった地域ができた。(地域部活動として学校との連携(休日の合同練習等)や、専門指導ができる教員の指導環境の創出等が期待できる。)
- 強化面においては成果が出るまで時間がかかる。事業を継続実施することが大切である。
- 既存チームの存続、新規チーム創部に向けた資金調達が必要。

グラフから見た現状・分析・課題②

【小学生】

- プロジェクト3年目をコロナ禍で迎えた。コロナ禍で入部機会が積極的だったかは不透明。
- 小学生の競技人口は、7年間で44.9p減である(年平均3.2p減)。
- プロジェクト3年目の減少が著しい。今後はチーム数の減少が予想される。
- プロジェクト以外で普及委員会主導の明確かつ目的を絞った効果的な事業が必要。
- 既存チームの存続、新規チーム創部に向けた資金調達が必要。

今後について

- 一定の効果が見られることから、プロジェクトは継続していく。これまで通り各事業については県協会常務理事会で審議・承認の上実施する。(プロジェクトは10年間を目途のため、あと7年です)
- (公財)日本ソフトボール協会「2030ありたい姿」の取組に伴い、日本協会様、電通様のサポートを受け、本県ドリームプロジェクトを更に推進する。
- ドリームプロジェクトに関わる取組は今後拡大が予想され(トップチームによる普及活動・チーム創部・既存チーム存続、県協会法人化、県協会主催体験会の開催等)、資金の調達や協力者の増員、現事業を発展的に各委員会の独自事業に移行するなど柔軟に取り組む。
- プロジェクト事業の運営、既存チーム・新規チームへのサポートとして資金が必要となるため、資金調達の仕組みを構築していく。(受益者負担の観点から練習会や講習会等での参加費の徴収、更にクラウドファンディングや協賛企業(スポンサー)の募集など)
- プロジェクト策定時からの計画通り(4年目)、男子県中学生選抜チームを編成し、都道府県対抗大会の派遣に向けた具体的な動きを開始する。
- 既存チームへ新規競技者入部までのサポート策を明確化し、持続可能な体制を構築する。
- 地域部活動(中学生)の在り方として、地域スポーツ活動のノウハウを蓄積する。
- 若年層のソフトボールに携われる持続可能な環境の構築に向けたモデル事業を開始する。
- 保護者にソフトボールをさせたいと思わせる手立て(仕組み)を構築する。